

平成28年第1回定例会一般質問

平成28年3月7日・8日・9日

(11枚のうち1枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
1	鶴田 公紀議員	1 寒波の被害状況について	(1) 最低温度・積雪量・凍結状況（平地と山間部） (2) 水道・ガス等 (3) 農作物 (4) その他（家屋・ハウス倒壊・倒木等々） (5) 交通規制や事故等 (6) 断水による給水車の出動個所と台数 (7) 今後の対策（マニュアル作成・情報伝達方法・自衛隊派遣等）	市長	
		2 平成28年度の施政方針のキーワードについて	(1) 総合振興計画に基づく総合戦略が中心だと思うが、重要施策で予算化した具体策を伺う。	市長	
		3 健康寿命の引き上げ対策について	(1) 元気老人への支援等について (2) 公共施設の開放及び各種講習会の開催等について	市長	

平成28年第1回定例会一般質問

平成28年3月7日・8日・9日

(11枚のうち2枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
2	左近充 議員	1 有害鳥獣被害対策について	(1) 電気牧柵の設置数は。 (2) イノシシ・シカ・サル・アナグマの捕獲数は。 (3) 箱ワナの設置数は。 (4) 狩猟期間中の鳥獣保護区、イノシシ・シカの駆除をだすべきではないか。	市長	
		2 イノシシ・シカ処理施設の運用について	(1) 毎年、何頭位処理しているか。 (2) 処理頭数の増加を。 (3) 処理事業補助金増加を。 (4) ジビエ料理は考えられないか。	市長	

平成28年第1回定例会一般質問

平成28年3月7日・8日・9日

(11枚のうち4枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
4	柿木原榮一議員	1 プレミアム商品券の検証	<p>(1) 市民が購入したプレミアム商品券はいかほどで、事務費はいかほどになったのか。</p> <p>(2) 助成率30%は伊佐市だけで、36団体(鹿屋市、枕崎市等)が20%であった。30%でよかったのか。県下で2団体に対応しなかったみたいだが、どのように感じられたのか。</p> <p>(3) 大型店舗でどれくらい商品券が使用されたのか。商品券の大部分が地元商店で使用されなかった理由は。</p> <p>(4) 購入されたプレミアム商品券の、使用されなかった金額とその割合は。</p> <p>(5) 使用されなかった商品券の金額は、広報の工夫次第でもっと減らせたのではないか。</p> <p>(6) 商工会に購入できなかったとの苦情があったそうだが、出水市のようにあらかじめ全戸にハガキを出して確認するなどの工夫はされなかったのか。</p>	市長	
		2 電力の自由化について	<p>(1) 2000年3月から順次進められてきた電気事業の制度だが、今まで独占されてきた電気事業市場への新規参入規制を緩和、市場競争を導入、電気料金の引き下げ、資源配分の効率化、サービスの更なる向上等で供給者目線から需要者への変革だと思う。伊佐市として検討したことはないのか。</p> <p>(2) 伊佐市の各施設で使用している電気料金は把握しているか。</p> <p>(3) 高圧・特別高圧(契約電力50kw以上)・低圧(契約電力50kw未満)など、各施設まとめて一括交渉もできるが、経費削減からの検討は。</p>	市長	

平成28年第1回定例会一般質問

平成28年3月7日・8日・9日

(11枚のうち5枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
5	緒方 重則議員	1 施政方針について	<p>地方創生のキーワード「人口・教育・産業・健康（幸）・安心」の具体策を問う。</p> <p>(1) 年代別人口動態で、特に15歳～24歳の転出超過が大きいがその対策は。</p> <p>(2) 交流人口の増加から定住人口を増やすとあるが、他市との差異を示せるか。</p> <p>(3) 「伊佐のふるさと教育」を推し進めることが、市の未来を創ることにつながるか。</p> <p>(4) 産業振興における企業活動支援・誘致の取組は。</p> <p>(5) 市民一人一人が主体的に健康づくりに取り組むための対策とは。</p> <p>(6) 魅力的なまちとして、居住継続に必要なインフラ整備が不可欠と思うが、その対策は。</p> <p>(7) 「住みやすいまち」に伊佐市の未来はあるのか。</p>	市長 教育長	

平成28年第1回定例会一般質問

平成28年3月7日・8日・9日

(11枚のうち6枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
6	沖田 義一議員	1 伊佐市のこれからの農業について	<p>(1) 伊佐市の農業は、水田、畜産を組合せた複合経営を主とし、それに野菜等を組合せたものが多数を占めている。この事についての評価を伺いたい。</p> <p>(2) 今後TPPが批准された場合、現在の複合経営体であったとしたとき、伊佐の農業はどのような事が予想されるか。</p> <p>(3) よくテレビや新聞等で、「攻めの農業」とか「輸出に活路を」とか「輸出額一兆円」とか耳当たりのよい言葉を聞くが、コメントを求める。</p> <p>(4) 自国の食糧は自国で賄うというのが建前であるが、残念ながら自給率は39%である。多様な農産物を生産し、輸出することには賛成である。しかし、第一にすべきことは、農業者に丁寧な説明をすることであると思う。いかなることをするにしても、農業者の理解と納得が前提である。</p> <p>また、日本の農業を守り支えるのは大型農家だけでなく、家族経営農家でもある。すべての農家で日本の自給率の向上を目指していくことが日本を守ることになると思っている。このことについて伺う。</p>	市長	
		2 外国人観光客の増加対策について	<p>(1) 伊佐市の年間観光客数はどれほどか。内外国人はどの程度か。どこの国からおいでになっているのか。</p> <p>(2) 外国人観光客には通訳がついてくるのか。また、お店での対応はどのようにしているのか。どのようなことに喜ばれ、興味を示され、びっくりされるのか。</p> <p>(3) 今後の外国人観光客の増加対策について伺いたい。</p>	市長	

平成28年第1回定例会一般質問

平成28年3月7日・8日・9日

(11枚のうち7枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
7	久保 教仁議員	1 園芸作物の産地化を	<p>(1) 伊佐の農業産出額は、165億3000万円。その71%が畜産、米が18%野菜にいたっては、6%弱の9億8000万円。内、市の指定する重点野菜10品目は、野菜の35%3億4000万円ではない。重点野菜の定義は何か。また、園芸振興にどう取り組むのか伺う。</p> <p>(2) 伊佐市には、カボチャ・長ネギ・水田ゴボウ・ゴウヤの生産者部会と伊佐市給食用野菜生産者会という組織がある。この中で、伊佐市給食用野菜生産者会の給食用野菜納入状況を分析すると、伊佐市の園芸の実態が垣間見える。どのような野菜を、いつ、どのくらい必要なかを教えてくれる。遅々として進展しない園芸振興、給食センターのサポート・地元産食材の比率アップから取り組むべきでは。</p> <p>(3) 給食センターの地元産食材が、ある程度確保できるようになったら、カット野菜を業務に取り込みたいという事業所がある。販路も大丈夫だという。6次産業化への一歩となると考えるが、どうか。</p>	市長	

平成28年第1回定例会一般質問

平成28年3月7日・8日・9日

(11枚のうち8枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
8	福本千枝子議員	<p>1 赤字の続く国保運営はどうなるのか</p> <p>2 スポーツ振興とスポーツ施設の改修を</p>	<p>国は、市町村が運営している国民健康保険の赤字が、平成25年度に比べ、平成26年度は447億円増の3585億円となったと発表した。本市でも赤字補填のため、一般会計から多額の法定外繰入をしている。今後の運営状況はどうなっていくのか伺う。</p> <p>(1) 国保税を上げたにもかかわらず、法定外繰入を繰り返す要因は。</p> <p>(2) 医療費が膨らむ要因は、高齢化もあるが他の要因は何があるか。</p> <p>(3) 医療費抑制についての施策は取ってきたのか。</p> <p>(4) 平成30年4月から国保運営が県に移るが、それまでこのままの状態で行くのか。それとも国保税を上げるのか。</p> <p>(5) 事業主体が県になった場合、国保税は上がるのか、下がるのか。試算は。</p> <p>(6) 今後、診療報酬の改定もある。食事・運動・休養を本気で取り組むべきと思うが。</p> <p>地方創生の基本目標の具体的な施策の中で、伊佐市のシンボリックなスポーツや文化（カヌー・ラグビー・バスケットボール・車椅子バスケット・剣道・ダンス）の拠点施設の整備とある。</p> <p>(1) 具体的にどのような整備計画か。また、スポーツによる交流人口をどう考えるか。</p> <p>(2) 陸上競技場のメインスタジアムの改修計画はないのか。1月の市郡対抗女子駅伝、2月の県下一周駅伝競走大会は一人の怪我もなく、練習の成果もあり、大健闘でした。選手の皆さんからは、更衣室やシャワー室等の設置の要望があった。検討できないか。</p> <p>(3) 自治体によっては、夜間のグラウンドを解放している。ランナー育成につながると考えるが、本市も検討できないか。</p> <p>(4) 体力向上、スポーツ振興のためにも、児童・生徒・高校生を含め体育施設の無料化はできないか。</p>	<p>市長</p> <p>市長 教育長</p>	

平成28年第1回定例会一般質問

平成28年3月7日・8日・9日

(11枚のうち9枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
9	畑中 香子議員	1 新電力の活用策について	(1) 電力小売りの自由化による新電力への移行が進んでいる。鹿児島県庁舎は14年度より九電から新電力に移行し、地域振興局や病院など、県有16施設で「新電力に移行」と報じられている。本市における主な公共施設の新電力への切り替え検討は。	市長	
		2 伊佐市財政計画の検証について	(1) 合併後に示された財政シミュレーションにおける地方交付税の額など決算額との間に大きな開きがあるが、このことについての見解を伺う。	市長	
		3 子ども医療費助成について	(1) 「中学校卒業まで拡充すること」との陳情が議会で採択されたが、どのように検討されたのか。 (2) 「子どもの貧困」が大きな問題になる中、子ども医療費の拡充を最優先として検討するべきではないのか。	市長	

平成28年第1回定例会一般質問

平成28年3月7日・8日・9日

(11枚のうち10枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
10	諏訪 信一議員	1 自治会を圧迫する募金活動について	<p>自治会活動の中に、募金活動がある。コミュニティ協議会を通じて、多くの自治会で取り組まれているが、この募金活動について問題点が指摘されている。自治事務ではないこの募金活動が、自治会加入の弊害になっているのではないかとも思われる。</p> <p>(1) 自治会を通じて募金活動を行っている募金の種類はどのようなものがあるか。</p> <p>(2) 実施時期、具体的方法、金額、参加している自治会数は。</p> <p>(3) なぜ自治会を通じて募金を実施するのか。その経過を。</p> <p>(4) 一世帯当たり幾らと提示して募金することに、苦情などは受けたことはないのか。</p> <p>(5) 強制ではないとはいえ、一律に募金することは本来の募金の趣旨に合致しているのか。</p> <p>(6) 事務交付金から払っている状態では、自治会本来の活動ができないのでは。</p>	市長	
		2 18歳選挙年齢引き下げについて	<p>公選法の改正で、今年から成年の象徴の一つだった選挙権が18歳に引き下げられる。文部科学省は、主権者教育の充実を求め、全国の高校が、模擬投票や模擬議会を実施している状況が報道されている。若い世代が、政治に関心を持つきっかけになればと思う。</p> <p>(1) 18歳への引き下げにより、有権者数は何人になるのか。</p> <p>(2) 高校に行っていない人に対して、投票に行く周知は。</p> <p>(3) 低投票率に歯止めがかけられるのか。</p>	選挙管理委員長	
		3 特別支援員の配置について	<p>(1) 賃金として25人分が予算計上してあるが、支援員一人に対しての交付税措置はいくらか。</p> <p>(2) 小中学校別の支援員の数は。(小 人、中 人)</p> <p>(3) 交付税は小中学校同額の配算か。</p> <p>(4) 支援員の研修、教職員の共通理解は図られているのか。</p>	教育長	

平成28年第1回定例会一般質問

平成28年3月7日・8日・9日

(11枚のうち11枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
11	森田 幸一議員	<p>1 公職選挙法改正に伴う取組について</p> <p>2 市道田中徳辺線の拡幅整備について</p>	<p>(1) 本年夏の参議院議員選挙には、本市で新たに対象となる18歳、19歳、新たな有権者数は概ねどれくらいか。また有権者全体の何%に相当するか。</p> <p>(2) 小学生・中学生における主権者教育について、教育委員会並びに選挙管理委員会はどのように取組んでいくのか。</p> <p>(3) 本市の3高校に投票率向上に向けた施策はあるのか。</p> <p>(4) 全国的に、投票率向上の取組として、学校及びショッピングセンター内や駅構内における期日前投票所の設置などが例として挙げられているが、伊佐市として投票率向上のためにどのような取組を検討しているのか。</p> <p>(1) 市道田中徳辺線の整備計画はどのようになっているのか。</p> <p>(2) 田中の起点から、大口酒造田中第二蒸留所付近までの拡幅整備等はできないか。</p>	<p>選挙管理委員長 教 育 長</p> <p>市 長</p>	